145

西垂水（にしたるみ）遺跡

（川辺郡知覧町大字西元字山薙）

位置と環境

知覧町の地形は大略，北方山岳部より南方にかけて緩やかな傾斜が続いている。遺跡は町の中心から南西へ約８㎞，背後に標高207ｍの丘陵があり，北西風を遮断する。水の少ない地域にあって遺跡の近くには湧水があり，小河川を形成している。集落では，古くからこの湧水が生活用水として利用されている。

周辺の遺跡には，旧石器時代の登立遺跡や中世の陣跡，陣ノ岡等も所在する。

調査の経緯

昭和37年にこの場所に紅茶工場が建設された際，土器等の遺物が折田兼雄によって採集され，遺跡であることがわかった。昭和38年には指宿高校教諭の河野治雄らの調査によって削り取られた地層から縄文土器や石器が発見されている。

平成７年県道枕崎知覧線道路拡張工事に伴い知覧町教育委員会が調査主体となり発掘調査を実施した。平成７年10月に確認調査，同年12月～平成８年１月まで本調査（約90㎡）を実施した。遺跡には町の進めるフィールドミュージアム事業によって顕彰碑が建立されている。

遺構と遺物

アカホヤ火山灰層の下（縄文時代早期後半の地層，本遺跡の第Ⅵ上層）から３基の集石遺構が発見されている。

出土遺物には苦浜式土器，円筒形貝殻文系塞ノ神式土器（第７図～第11図），右京西式類似土器（第６図），撚糸文系塞ノ神式土器（第２・３図）などの土器をはじめ，石鏃（第14図），石匙，石槍，ピエス・エスキーエ，打製石斧，磨製石斧，砥石，磨石・敲石，スクレイパー，石皿，土製品，壺形土器（第４・５図），ミニチュア土器（第12図），耳栓（土製耳飾）２個（第13図），そのほかにフレーク・チップ類等が出土している。いずれも当遺跡の第Ⅵ上層（縄文時代早期後半）からの発見である。遺物の明確な上下関係を押さえることは困難であった。

土器には，南九州の縄文時代後期を代表する一連の

第１図　西垂水遺跡の位置

土器形式が発見されている。中でもの器面は研かれ滑らかで，同心円状の沈線文を施した手向山式系土器やラッパ状に開く深鉢形の器形で縦方向の撚糸文を施した撚糸文系塞ノ神式土器などの一群と円筒形平底で貝殻文の刺突や連点文，条痕を施した貝殻文系塞ノ神式土器や円筒形状平底で横や縦，斜め，波状，または同心円状に条痕文を描き，コブ状の突帯や隆起線文を施した苦浜式土器などの一群の土器が出土している。同遺跡発見の集石遺構から検出した木炭の放射性年代測定では，6770年～7020年の年代が与えられている。

特徴

本遺跡の打製石器の材料には，黒曜石が多く使用されているが，その黒曜石のほとんどが南九州産のものではなく西北九州産のものであり，東九州産のものまで目立つことは特質される。早期後半における活発な交易を示す事例として重要である。

さらに，本遺跡の石器には縄文時代の基本的な道具が一通り出揃っているのも大きな特徴であり，併せて壺形土器や耳栓２個も出土しており，この時期の精神・生活文化を探る上で重要である。

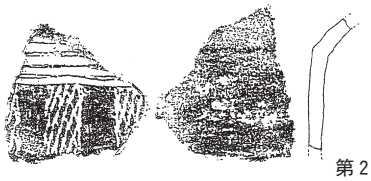
資料の所在

出土遺物は，ミュージアム知覧に収蔵保管されている。なお，発掘調査中の一部をパネルで公開している。

参考文献

知覧町教育委員会1997「西垂水遺跡」『知覧町埋蔵文化財発掘調査報告書』第８集
ニューサイエンス社

（上田　耕）



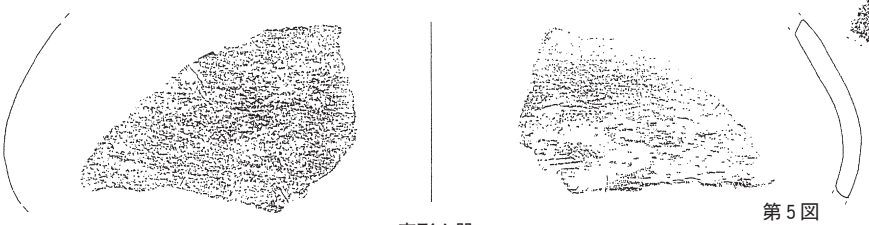
第２図

第３図

撚糸文系塞ノ神式土器

第４図

壺形土器

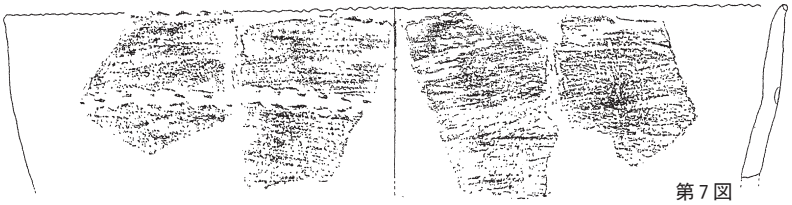


壺形土器

第５図

第６図

右京西式土器

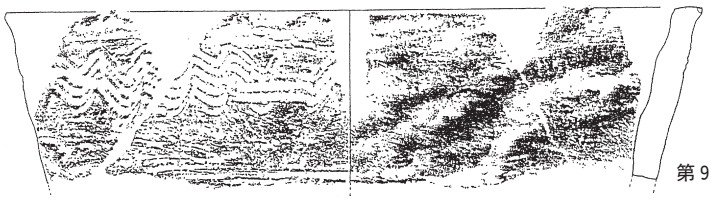


第７図

（貝殻文系塞ノ神式土器）

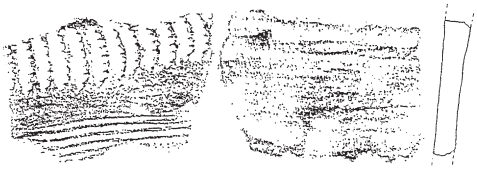
第８図

（苦浜式土器）

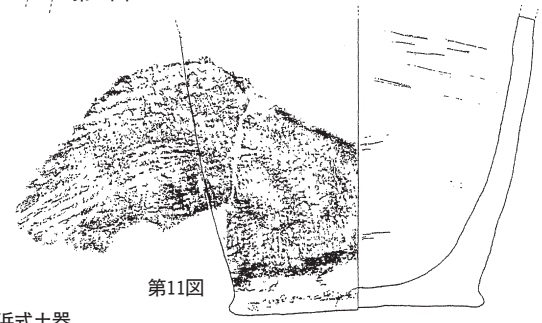


第９図

（苦浜式土器）



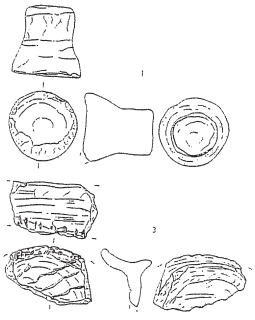
第10図



第11図

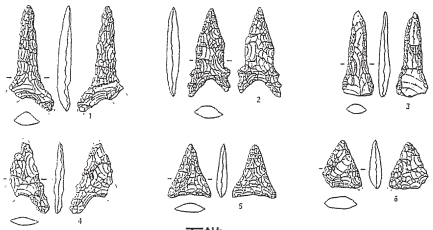
苦浜式土器

底部



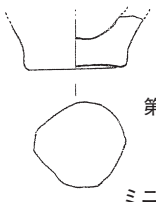
耳栓

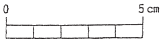
第13図



石鏃

第14図



第12図

ミニチュア土器